

## **Oracle® Cloud**

Oracle Enterprise Performance Management Cloud アクセス制  
御の管理

**F28935-05**

Oracle Cloud Oracle Enterprise Performance Management Cloud アクセス制御の管理

F28935-05

Copyright © 2015, 2021, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

---

---

# 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて.....	v
ドキュメントのフィードバック.....	vii
<b>1 アクセス制御の概要</b>	
このガイドについて.....	1-1
アクセス制御のオープン.....	1-2
グループの管理.....	1-2
グループの作成.....	1-2
グループの変更.....	1-3
グループの削除.....	1-4
ファイルからのユーザーのグループ割当のインポート.....	1-5
多数のグループへのユーザーの割当て.....	1-6
検索の使用.....	1-6
<b>2 アプリケーション・レベルでの役割割当ての管理</b>	
Planning および連結アプリケーションの役割.....	2-2
Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションの役割.....	2-3
グループまたはユーザーへの役割の割当て.....	2-4
グループまたはユーザーに割り当てられたアプリケーション・レベルの役割の削除.....	2-4
<b>3 レポートの生成</b>	
ユーザーまたはグループの役割の割当てレポートの生成.....	3-1
使用する環境の役割の割当てレポートの表示.....	3-2
ユーザー・ログイン・レポートの表示.....	3-3
ユーザー・グループ・レポートの表示およびエクスポート.....	3-4



---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>、聴覚に障害があるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。



---

## ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。  
epmdoc\_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。





---

## アクセス制御の概要

Oracle Enterprise Performance Management Cloud コンポーネントへのアクセスは、ユーザーが割り当てられているアイデンティティ・ドメインの事前定義済役割によって制御されます。サービス管理者は、ユーザーが環境で追加のタスクを完了できるように、ユーザーを **Planning**、連結およびデータ管理の各アプリケーションのアプリケーション固有の役割に割り当てることができます。

たとえば、ユーザーが承認関連のアクティビティを実行できるように、サービス管理者はユーザーを **Planning** または連結アプリケーションの承認管理者の役割に割り当てることができます。

さらに、サービス管理者は、アクセス制御から、アイデンティティ・ドメイン・ユーザーまたは他のグループを含むグループを作成できます。役割をこのようなグループに割り当てることで、サービス管理者は多数のユーザーに一度に役割を付与でき、管理オーバーヘッドを削減できます。

アプリケーション・レベルの役割の割当てでは、ユーザーのアクセス権限の拡張のみを実行できます。アプリケーション・レベルで割り当てられた役割で、事前定義済役割によって付与された権限を縮小することはできません。

アクセス制御を使用して、次のアクティビティを環境で実行できます。

- [グループの管理](#)
- [グループまたはユーザーへの役割の割当て](#)
- [ユーザーまたはグループの役割の割当レポートの生成](#)
- [使用する環境の役割の割当レポートの表示](#)
- [ユーザー・ログイン・レポートの表示](#)

### このガイドについて

アクセス制御は、次の Oracle Enterprise Performance Management Cloud ビジネス・プロセスに適用されます。


- **Planning**
- **Planning** モジュール
- **Financial Consolidation and Close**
- **Tax Reporting**
- **Profitability and Cost Management**
- **Account Reconciliation**
- **Oracle Enterprise Data Management Cloud**

- Narrative Reporting
- Oracle Strategic Workforce Planning Cloud
- Oracle Sales Planning Cloud

## アクセス制御のオープン

ホームページの「ツール」カードで使用できる、「アクセス制御」からアプリケーション固有の役割をグループおよびユーザーに割り当てられます。

アクセス制御を開くには:

1. サービス管理者として環境にアクセスします。
2. 次のステップを実行します:
  -  (ナビゲータ)、「アクセス制御」の順にクリックします。
  - 「ツール」、「アクセス制御」の順にクリックします。
  - **Oracle Enterprise Data Management Cloud および Narrative Reporting のみ:** 「アクセス制御」をクリックします。

## グループの管理

Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、内部リポジトリを使用して、アプリケーション・レベルの役割割当てをサポートし、役割割当てプロセス中に使用するグループに関する情報を格納します。

EPM Cloud ユーザーと他のグループを、アクセス制御を使用して管理されるグループのメンバーにすることができます。グループに役割を割り当てることで、ユーザーにアプリケーションの役割を付与できます。

ユーザー割当てを参照できるように、「アクセス制御」には事前定義済役割がグループとして示されます。「アクセス制御」からこれらに対して変更または役割割当てすることはできません。さらに、事前定義済役割に割り当てられている EPM Cloud ユーザーをグループ・メンバーとして追加できるように、それらのユーザーが「アクセス制御」に表示されます。 *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の事前定義済役割の理解を参照してください。

- [グループの作成](#)
- [グループの変更](#)
- [グループの削除](#)

---

**ノート:** 「アクセス制御」を使用して、ファイルからグループ情報をインポートしてグループを作成することはできません。同様に、「アクセス制御」を使用して、グループ情報をエクスポートできません。グループをインポートするには、「移行」または `createGroups EPM` 自動化コマンドを使用できます。

---

## グループの作成

サービス管理者のみがグループを作成および管理できます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud ユーザーおよびその他のグループは、グループのメンバーになることが可能です。

---

ノート: また、「移行」または createGroups EPM 自動化コマンドを使用して、ファイルからグループ情報をインポートしてグループを作成できます。

---

グループを作成するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**グループの管理**」で「**作成**」をクリックします。
3. 「**グループの作成**」で、次のステップを実行します。
  - a. 「**名前**」に、役割の名前を入力します(最大 256 文字)。

グループ名では大文字と小文字は区別されません。セキュリティ・レポートでのあいまいさを防ぐために、EPM Cloud では、現在および以前の事前定義済役割名(サービス管理者、パワー・ユーザー、ユーザー、参照者、プランナ、システム管理者、アプリケーション管理者、ライブラリ管理者、レポート管理者)に名前が一致するグループを作成することは許可されていません。
  - b. **オプション**: グループの説明を入力します。
4. **オプション**: グループを追加して、ネストされたグループを作成します。
  - a. 「**使用可能なグループ**」で、グループを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。

検索条件に一致するグループが、「**使用可能なグループ**」に表示されます。
  - b. 「**使用可能なグループ**」から、新しいグループのメンバー・グループを選択します。
  - c. 「**移動**」をクリックします。

選択したグループは、「**割り当てられたグループ**」の下に表示されます。「**割り当てられたグループ**」から、割り当てられたグループを削除するには、削除するグループを選択して、「**削除**」をクリックします。
5. **オプション**: EPM Cloud ユーザーをグループのメンバーとして追加します。グループ・メンバーとして追加できるのは、事前定義済役割に割り当てられているユーザーのみです。
  - a. 「**ユーザー**」をクリックします。
  - b. 「**使用可能なユーザー**」で、ユーザーを検索します。手順については、[検索の使用](#)を参照してください。
  - c. 「**使用可能なユーザー**」から、グループに追加するユーザーを選択します。
  - d. 「**移動**」をクリックします。
6. 「**保存**」をクリックします。
7. 「**OK**」をクリックします。

## グループの変更

サービス管理者は、グループのプロパティ(グループ名を含む)を変更できます。グループ名を変更しても、グループに割り当てられたアプリケーション役割およびその他のセキュリティ割当ては影響されません。


グループを変更するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. **オプション**: 「**グループの管理**」で、変更するグループを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。

---

**ノート**: グループ名には、71 文字まで使用できます。ただし、最初の 34 文字のみが、「**使用可能なグループ**」列に表示されるリストに表示されます。


---

3. 変更するグループの行で  (「アクション」)をクリックして、「**編集**」を選択します。
4. **オプション**: グループ名を変更します。グループ名を変更しても、グループを使用して行われたセキュリティ割当てに影響はありません。
5. グループ割当ての変更:
  - a. **オプション**: ネストされたグループを追加します。
    - 「**使用可能なグループ**」で、グループを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
    - 「**使用可能なグループ**」からグループを選択し、「**移動**」をクリックします。選択したグループが「**割り当てられたグループ**」に表示されます。
  - b. **オプション**: ネストされたグループを削除します。
    - 「**割り当てられたグループ**」から、除去するグループを選択します。
    - 「**削除**」をクリックします。
6. ユーザー割当ての変更:
  - a. 「**ユーザー**」をクリックします。
  - b. **オプション**: グループにユーザーを追加します。
    - 「**使用可能なユーザー**」で、グループ・メンバーとして割り当てることができるユーザーを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
    - 「**使用可能なユーザー**」からユーザーを選択し、「**移動**」をクリックします。選択したユーザーが、「**割り当てられたユーザー**」リストに表示されます。
  - c. **オプション**: グループからユーザーを削除します。
    - 「**割り当てられたユーザー**」から、除去するユーザーを選択します。
    - 「**削除**」をクリックします。
7. 「**保存**」をクリックします。
8. 「**OK**」をクリックします。

## グループの削除

グループを削除しても、グループ・メンバーは削除されません。

グループを削除するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. **オプション: 「グループの管理」** で、削除するグループを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
3. 削除するグループの行で  (「アクション」)をクリックして、「**削除**」を選択します。
4. 「はい」をクリックして削除操作を確認します。
5. 「OK」をクリックします。

## ファイルからのユーザーのグループ割当のインポート

サービス管理者は、カンマ区切り値(CSV)ファイルからユーザーのグループ割当をインポートして、既存のアクセス制御グループに新しい割当を作成できます。**Oracle Enterprise Performance Management Cloud** は、新しいグループ割当に基づいて、アプリケーション・レベルおよびアーティファクト・レベルのセキュリティ割当を強制します。

---

**ノート:** インポート・ファイルで識別されたすべてのユーザー・ログインは、アイデンティティ・ドメインに存在する必要があります。ファイルに含まれるすべてのグループ名は、アクセス制御に存在する必要があります。このインポート・プロセスを使用してグループを作成することはできません。

新しいグループ割当を作成できるのみです。ユーザーの現在のグループ割当を削除することはできません。

---

インポート CSV ファイル形式は次のようになります。

```
User Login,Group
jdoe, Example_grp1
jane.doe@example.com, Example_grp2
```

```
User Login,First Name,Last Name,Email,Direct,Group
jdoe, John, Doe, jdoe@example.com, Yes, Example_grp1
jane.doe@example.com, Jane, Doe, jane.doe@example.com, No, Example_grp2
```

この形式は、CSV バージョンのユーザー・グループ・レポートと同じです。この形式を使用すると、インポート・プロセスでは「ユーザー・ログイン」と「グループ」を除くすべての列が無視されます。インポート・ファイルを作成する簡単な方法は、現在のユーザー・グループ・レポートをエクスポートし、必要に応じてそれを変更することです。[ユーザー・グループ・レポートの表示およびエクスポート](#)を参照してください。

ユーザーのグループ割当をインポートするには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「ユーザー・グループ・レポート」をクリックします。






3. 「CSV からインポート」をクリックします。
4. 「ユーザー・グループ割当 CSV のインポート」の「参照」を使用して、インポート・ファイルを選択します。
5. 「インポート」をクリックします。
6. 「はい」をクリックします。

インポート・プロセスが完了すると、処理された割当の合計数およびステータスを示す確認ダイアログ・ボックスが表示されます。

## 多数のグループへのユーザーの割当て

Oracle Enterprise Performance Management Cloud ユーザーは、「アクセス制御」を使用して保持される多数のグループのメンバーになることが可能です。

多数のグループにユーザーを割り当てるには:

1. **アクセス制御**を開きます。 [アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「ユーザーの管理」をクリックします。  
現在の環境の全ユーザーのリストが表示されます。
3. グループに割り当てるユーザーを検索します。検索機能の使用手順は、 [検索の使用](#)を参照してください。
4. ユーザー・リストの行にある  (「アクション」)をクリックし、「編集」を選択します。  
「ユーザーの編集」画面が表示され、現在のグループ・メンバーシップ(「割り当てられたグループ」)を含む詳細なユーザー情報がリストされます。この画面では、グループ割当てのみ変更できます。
5. ユーザーを割り当てるグループを検索します。検索機能の使用手順は、 [検索の使用](#)を参照してください。
6. 次の処理を完了します:
  - 追加のグループをユーザーに割り当てるには、「使用可能なグループ」から1つ以上のグループを選択し、  (「移動」)をクリックして、選択したグループを「割り当てられたグループ」に移動します。または、  (「すべて移動」)をクリックして、「使用可能なグループ」のすべてのグループを「割り当てられたグループ」に移動します。
  - ユーザーに割り当てられたグループを削除するには、「割り当てられたグループ」から1つ以上のグループを選択し、  (「削除」)をクリックして、選択したグループを「使用可能なグループ」に移動します。または、  (「すべて削除」)をクリックして、「割り当てられたグループ」のすべてのグループを「使用可能なグループ」に移動します。
7. 「保存」をクリックします。
8. 「OK」をクリックします。


## 検索の使用

ユーザーおよびグループのアーティファクトのインテリジェント検索は、アクセス制御全体で同様に機能します。

ユーザー属性(ユーザー名、名、姓または電子メール ID)、グループ名または役割名のいずれかの文字列を使用して、特定のユーザー、グループまたは役割を検索します。検索文字列にワイルドカードを使用する必要はありません。たとえば、グループの検索に文字列 `st` を使用すると、文字列 `st` が含まれるすべてのグループ名(`TestGroup`、`Strategic_Planner`、`AnalystsGroup` など)が表示されます。同様に、ユーザーの検索に文字列 `jd` を使用すると、ユーザー名、名、姓または電子メール・アドレスに文字列 `jd` が含まれるユーザーがリストされます。


**ノート:** 一部のアクセス制御画面(「アプリケーション役割の割当」、「役割の割当レポート」、「ユーザー・グループ・レポート」など)では、検索の選択肢が提供されます。検索を開始する前に適切な選択を行ってください。

#### ユーザーを検索するには:


1. ユーザー検索機能を使用できる「ユーザーの管理」などの画面にアクセスします。
2. 検索フィールドで、ユーザー属性(ユーザー名、名、姓または電子メール ID)の部分文字列を入力します。
3.  (「検索」)をクリックします。

検索条件に一致するユーザーの使用可能なすべてのプロパティが検索結果に表示されます。列ヘッダーをクリックして、取得されたユーザーのリストをソートできます。

#### グループを検索するには:

- グループ検索機能を使用できる「グループの管理」などの画面にアクセスします。
- 検索フィールドで、グループ名の部分文字列を入力します。
-  (「検索」)をクリックします。


検索条件に一致するグループの名前と説明が検索結果に表示されます。グループ名または説明に基づいて、取得されたグループのリストをソートできます。

**Create Group**  Save Close

\* Name:

Description:

Groups Users

Available Users  


First Name	Last Name	Email	User Login
John	Doe	john.doe@exam...	jdoe
Jane	Doe	jane.doe@exam...	jadoe31
Jane	Doe	jane.x.doe@exam.	jadoe41

Assigned Users

First Name	Last Name	Email	User Login
No records were found.			

#### 役割の割当レポートの役割に基づいてユーザーを検索するには:

- 「役割の割当レポート」タブにアクセスします。
- 検索ドロップダウン・リストから、「ユーザー」または「役割」を選択します。

- 検索フィールドに検索文字列を入力します。
-  (「検索」)をクリックします。

検索条件に一致する役割に割り当てられたユーザーの使用可能なすべての情報が検索結果に表示されます。



## アプリケーション・レベルでの役割割当ての管理

アプリケーション・レベルの役割割当ては、Planning、連結および決算、税務報告や Oracle Enterprise Data Management Cloud の各アプリケーションに対してサポートされています。Planning、連結および Oracle Enterprise Data Management Cloud のアプリケーションでは詳細なアプリケーション固有の役割を使用して、事前定義済役割によって付与されるアクセス権が強化される一方、Profitability and Cost Management ではアプリケーション・データへのアクセスを保護するために、ユーザーおよびグループ・レベルのデータ権限が割り当てられます。

### 概要

全体的なアクセス権限は定義済の Oracle Enterprise Performance Management Cloud の役割によって制御されますが、サービス管理者はアクセス制御で作成および管理されるユーザーおよびグループに、アプリケーション固有の役割とデータ権限を付与できます。たとえば、デフォルトでは、承認プロセスを設計する権限はユーザーにはなく、パワー・ユーザーとサービス管理者にのみ付与されています。ユーザーが承認関連アクティビティを実行できるように、サービス管理者はアクセス制御で承認管理者の役割をユーザーに割り当てることができます。

アプリケーション・レベルの役割割当てでは、ユーザーのアクセス権限の拡張のみを実行できます。アプリケーション・レベルの役割割当てで、事前定義済役割によって付与された権限を縮小することはできません。

役割割当てプロセスはアクセス制御を使用して管理します。次のタスクを実行できます。

- グループの作成と、EPM Cloud ユーザーまたは他のグループのメンバーとしての追加
- グループ・メンバーの追加または削除
- Planning および連結アプリケーションの役割のグループまたはユーザーへの割当て
- グループのメンバーであるユーザーのリストの表示

### EPM Cloud ユーザー

EPM Cloud ユーザーの作成と管理は、ビジネス・プロセスが属する環境に関連付けられているアイデンティティ・ドメインで行います。アプリケーション・レベルの役割を割り当てて、ビジネス・プロセス内でタスクを実行するために持っているアクセス権を拡張できるのは、事前定義済役割に割り当てられているユーザーに対してのみです。

## Planning および連結アプリケーションの役割

次の役割は、Planning、連結および税務報告アプリケーションのみに適用されます。**Profitability and Cost Management** アプリケーションからのデータ権限の割当ての詳細は、*Profitability and Cost Management* の管理を参照してください。

デフォルトでは、「サービス管理者」および「パワー・ユーザー」のみが **Data Management** にアクセスして、データ統合プロセスの作業ができます。ユーザーまたは参照者のアイデンティティ・ドメインの役割を持つユーザーが統合プロセスに参加できるようにするため、「サービス管理者」は **Data Management** の役割(「統合の作成」、「統合の実行」および「ドリルスルー」)をそのユーザーに割り当てる必要があります。

### 承認管理者

手動でプロセスの所有権を取得して、承認の問題を解決します。承認所有権割当て者、承認プロセス・デザイナー、承認スーパーバイザといった役割が含まれます。

通常、この役割は、地域を担当し、その地域の承認プロセスを制御する必要はあるが、**Planning** 管理者の役割は必要としないビジネス・ユーザーに割り当てられます。次のタスクを行います:

- 承認プロセスの制御
- 書込みアクセス権を持つ **Planning** ユニットに対するアクションの実行
- 担当内の組織の所有者とレビュー担当者の割当て
- 副ディメンションの変更または検証ルールの更新

### 承認所有権割当て者

プランナの役割を持つユーザーが完了できるすべてのタスクを実行します。さらに、ユーザーが書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します。

- 所有者の割当て
- レビュー担当者の割当て
- 通知対象のユーザーの指定

### 承認プロセス・デザイナー

プランナおよび承認所有権割当て者の役割を持つユーザーが完了できるすべてのタスクを実行します。さらに、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します。

- 副ディメンションと書込みアクセス権を持つエンティティのメンバーの変更
- プランニング・ユニット階層のシナリオとバージョン割当ての変更
- ユーザーがアクセス権を持つデータ・フォームのデータ検証ルールの編集

### 承認スーパーバイザ

プランニング・ユニットを所有していない場合でも、ユーザーが書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します。このユーザーは、所有していないプランニング・ユニットのデータは変更できません。

- プランニング・ユニットの停止と開始
- プランニング・ユニットに対する任意のアクション

#### アドホック・グリッド作成者

アド・ホック・グリッドの作成、表示、変更および保存を行います。

#### アド・ホック・ユーザー

アド・ホック・グリッドの表示や変更およびアド・ホック操作を行います。アド・ホック・ユーザーはアド・ホック・グリッドを保存できません。

#### アドホック読取り専用ユーザー

すべてのアド・ホック機能を実行しますが、アド・ホック・グリッドに書き戻したり、Data Management を使用してデータをロードしたりすることはできません。

#### 一括割当て

フォーム・グリッド内で一括割当てルールを実行します。

#### タスク・リスト・アクセス・マネージャ

他のユーザーにタスクを割り当てます。

#### 統合の作成

Data Management を使用して、ソース・システムとターゲット・システム間でデータを統合するマッピングを作成します。ユーザーは様々な実行時オプションを使用してデータ・ルールを定義できます。

#### 統合の実行

Data Management から、実行時パラメータを使用してデータ・ルールを実行し、実行ログを表示します。

#### ドリル・スルー

データのソース・システムへドリル・スルーします。

## Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションの役割

これらの役割は Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションのみに適用されます。

#### アプリケーション作成者

Oracle Enterprise Data Management Cloud でアプリケーションを登録します。アプリケーションを登録するユーザーは「アプリケーションの所有者」権限を割り当てられます。このユーザーは、デフォルトのアプリケーション・ビューのビュー所有者としても割り当てられます。

#### 監査者

トランザクション履歴などの監査関連情報を表示し、Oracle Enterprise Data Management Cloud のデータの変更を要求します。

### ビュー作成者

Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションでビューを作成します。ビューを作成するユーザーは、そのビューに対する「ビューの所有者」権限を割り当てられます。

## グループまたはユーザーへの役割の割当て

このプロセス中、サービス管理者は、事前定義済役割を割り当てられたグループおよびユーザーにアプリケーション・レベルの役割を割り当てます。

---

---

### ノート:


自分のユーザー・アカウントにアプリケーションの役割を割り当てることはできません。

役割割当てを参照できるように、「アクセス制御」には定義済の Oracle Enterprise Performance Management Cloud の役割がグループとして示されます。「アクセス制御」からこれらにアプリケーション・レベルの役割を割り当てることはできません。

---

---

アプリケーション・レベルの役割をグループまたはユーザーに割り当てるには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**アプリケーション役割の割当て**」をクリックします。
3. ユーザーまたはグループを検索します。ドロップ・ダウン・リストから「**ユーザー**」または「**グループ**」を選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
4. ユーザーまたはグループの  («**アクション**»)をクリックし、「**役割の割当て**」を選択します。
5. 「**使用可能な役割**」から、ユーザーまたはグループに割り当てる役割を選択して、「**移動**」をクリックします。

ユーザーおよびグループに割当て可能な役割の説明については、次の項を参照してください。

- [Planning および連結アプリケーションの役割](#)
- [Oracle Enterprise Data Management Cloud アプリケーションの役割](#)


選択した役割が、「**割り当てられた役割**」に表示されます。割り当てられた役割を削除するには、「**割り当てられた役割**」から削除する役割を選択して、「**削除**」をクリックします。

6. 「**OK**」をクリックします。
7. 「**OK**」をクリックします。

## グループまたはユーザーに割り当てられたアプリケーション・レベルの役割の削除

このプロセスにより、グループまたはユーザーに割り当てられているすべてのアプリケーションの役割が削除されます。アプリケーション・レベルの役割割当ての削除は、ユーザーの事前定義済役割に影響しません。

グループまたはユーザーのアプリケーション・レベルの役割を削除するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**アプリケーション役割の割当**」をクリックします。
3. ユーザーまたはグループを検索します。ドロップ・ダウン・リストから「**ユーザー**」または「**グループ**」を選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
4. ユーザーまたはグループの  (「**アクション**」)をクリックし、「**役割の割当解除**」を選択します。
5. 「**はい**」をクリックします。
6. 「**OK**」をクリックします。



## レポートの生成

次のレポートを使用して、役割割当てを分析および管理します。

- [ユーザーまたはグループの役割の割当レポートの生成](#)
- [使用する環境の役割の割当レポートの表示](#)
- [ユーザー・ログイン・レポートの表示](#)
- [ユーザー・グループ・レポートの表示およびエクスポート](#)

レポートで示されたレポート生成時間は、ブラウザ・タイム・ゾーンに基づく時刻を反映します(ローカル・システム時計)。

### レポートの CSV バージョンについて

レポートをエクスポートすると、レポートのカンマ区切り値(CSV)バージョンを作成できます。事前定義済役割に割り当てられているユーザー数に加えて、レポートの CSV バージョンには次のことが表示されます:


- 各ユーザーが割り当てられている事前定義済役割。ユーザーに割り当てられた事前定義済役割ごとに個別の行に表示されます。事前定義済役割に組み込まれたアプリケーション役割はリストされません。
- ユーザーが直接またはグループを通じて割り当てられているアプリケーション役割。ユーザーに割り当てられたアプリケーション役割ごとに個別の行に表示されます。
- グループがどの役割にも割り当てられていない場合、ユーザーが割り当てられている先のグループはリストされません。
- レポートの現在のビューからの情報のみが CSV にエクスポートされます。たとえば、レポートをフィルタして特定のユーザーの役割割当てを表示した場合、エクスポートされた CSV ファイルには、そのユーザーの割当てのみが含まれます。

## ユーザーまたはグループの役割の割当レポートの生成

サービス管理者は、役割の割当レポートを使用して、ユーザーの割り当てられた事前定義済役割およびアプリケーション役割を確認します。ユーザーが属すグループは、そのグループがユーザーへのアプリケーション役割の割当てに使用されていないければ、表示されません。このレポートでは、コンプライアンス・レポート用にユーザー・アクセスを追跡できます。

ユーザーまたはグループの役割の割当レポートを生成するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**アプリケーション役割の割当**」をクリックします。

3. ユーザーまたはグループを検索します。ドロップ・ダウン・リストから「ユーザー」または「グループ」を選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
4. レポートを生成するユーザーまたはグループの「アクション」（「アクション」）をクリックして、「役割の割当レポート」を選択します。
5. オプション: 「CSVにエクスポート」をクリックして、レポートを CSV ファイルにエクスポートします。
6. 「閉じる」をクリックするとレポートが終了します。

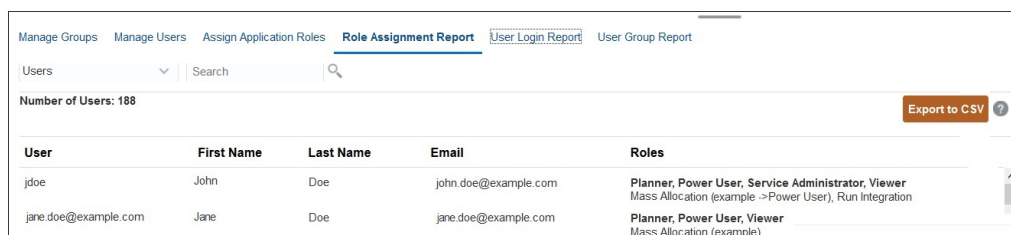
## 使用する環境の役割の割当レポートの表示

サービス管理者は、役割の割当レポートを使用して、事前定義済役割およびアプリケーション・レベルの役割を通して割り当てられた、すべてのユーザーのアクセス権を確認します。このレポートには、ユーザーに割り当てられた、事前定義済の役割(例: パワー・ユーザー)とアプリケーションの役割(例: Planning アプリケーションの役割である、一括割当て)がリストされます。

継承された役割は、継承上の情報と同様に、ユーザーごとに 1 行で表示されます。たとえば、ユーザー John Doe に User 事前定義済役割が割り当てられており、User が、Planning アプリケーション役割の Approvals Administrator が割り当てられている example グループのメンバーであると想定します。このシナリオでは、役割の割当レポートに John Doe の役割割当て情報の一部として次が表示されます。:

Approvals Administrator (example->User)。

役割の割当レポートには、事前定義済役割に基づいて環境にアクセスする権限があるユーザー数も示されます。事前定義済役割に組み込まれるアプリケーション役割、またはユーザーに割り当てられているアプリケーション役割のコンポーネント役割はリストされません。このような詳細情報が表示されたレポートが必要な場合は、`provisionReport EPM 自動化コマンド`を使用してレポートのクラシック・バージョンを生成できます。



User	First Name	Last Name	Email	Roles
jdoe	John	Doe	john.doe@example.com	Planner, Power User, Service Administrator, Viewer Mass Allocation (example ->Power User), Run Integration
jane.doe@example.com	Jane	Doe	jane.doe@example.com	Planner, Power User, Viewer Mass Allocation (example)

役割の割当レポートは CSV ファイルとしてエクスポート可能であり、これは Microsoft Excel などのプログラムを使用して開いたり、コンピュータに保存することができます。CSV 形式の役割の割当レポートでは、役割の割当てごとに 1 行が使用されます。



	A	B	C	D	E	F
1	User Login	First Name	Last Name	Email	Role	Granted through Group
2	Jdoe	John	Doe	jdoe@example.com	Planner	
3	jdoe	John	Doe	jdoe@example.com	Power User	
4	Jdoe	John	Doe	jdoe@example.com	Service Administrator	
5	jdoe	John	Doe	jdoe@example.com	Viewer	
6	Jdoe	John	Doe	jdoe@example.com	Mass Allocation	example->Power User
7	jdoe	John	Doe	jdoe@example.com	Run Integration	
8	jane.doe@example.com	Jane	Doe	jane.doe@example.com	Planner	
9	jane.doe@example.com	Jane	Doe	jane.doe@example.com	Power User	
10	jane.doe@example.com	Jane	Doe	jane.doe@example.com	Viewer	
11	jane.doe@example.com	Jane	Doe	jane.doe@example.com	Mass Allocation	example

役割の割当レポートを開くには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**役割の割当レポート**」をクリックします。  
役割の割当レポートが表示されます。
3. **オプション**: レポートをフィルタして次を表示します。
  - 特定のユーザーの役割割当て。ドロップ・ダウン・リストから「**ユーザー**」を選択し、部分検索文字列を入力します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
  - 特定の役割に割り当てられたユーザー。ドロップ・ダウン・リストから「**役割**」を選択し、部分役割名を入力します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。

---

**ノート:** ユーザーは多くの役割に割り当てられる場合があります。そのような場合、特定の役割についてフィルタしている場合でも、レポートにはユーザーのすべての役割がリストされます。

---

4. **オプション**: 「**CSVにエクスポート**」をクリックして、レポートを CSV ファイルにエクスポートします。現在表示されているレポートからの情報のみが CSV にエクスポートされることに注意してください。

## ユーザー・ログイン・レポートの表示

ユーザー・ログイン・レポートには、デフォルトにより、過去 24 時間に環境にサインインしたユーザーに関する情報が含まれています。ユーザーのログイン元となるコンピュータの IP アドレスと、ユーザーが環境にアクセスした日時(UTC)がリストされます。

サービス管理者は、このレポートをカスタム日付範囲または過去 30 日間、過去 90 日間および過去 120 日間で再生成できます。また、検索文字列としてユーザーの名、姓またはユーザー ID の部分文字列を使用して、特定のユーザーの情報のみを表示するようレポートをフィルタできます。

---

**ノート:** Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、ユーザー・ログイン監査履歴が保持されるのは過去 120 日間のみです。

---

ユーザー・ログイン・レポートを再生成するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。

2. ユーザー・ログイン・レポートをクリックします。

過去 1 日間に環境にサインインしたすべてのユーザーがリストされるレポートが表示されます。

3. レポートを生成する期間(過去 1 日間、過去 30 日間、過去 90 日間、過去 120 日間)を選択します。カスタム日付範囲を指定するには、「日付範囲」を選択してから開始日と終了日を選択します。

4. オプション: レポートに含めるユーザーを選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。

5. オプション: 「CSV にエクスポート」をクリックして、表示されたレポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。

6. 「取消し」をクリックしてレポートを閉じます。

## ユーザー・グループ・レポートの表示およびエクスポート

ユーザー・グループ・レポートには、「アクセス制御」のグループに割り当てられたユーザーの直接または間接メンバーシップがリストされます。

ユーザーは、グループに割り当てられるとグループの直接メンバーと見なされ、別のグループの子であるグループに割り当てられると間接メンバーと見なされます。グループに割り当てられた各ユーザーについて、レポートには、ログイン ID、氏名、電子メール ID、ユーザーが直接的または間接的に割り当てられたグループのカンマ区切りリストなどの情報がリストされます。CSV バージョンのレポートには、「はい」または「いいえ」を使用して、ユーザーが直接的または間接的にグループに割り当てられたかが示されます。

---

**ノート:** このレポートは、Account Reconciliation および Narrative Reporting には適用されません。

---

ユーザー・グループ・レポートを再生成するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。

2. 「ユーザー・グループ・レポート」をクリックします。

3. **オプション:** レポートをフィルタします。ドロップ・ダウン・リストから「ユーザー」または「グループ」を選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。

4. **オプション:** 「CSV にエクスポート」をクリックして、レポートを CSV ファイルにエクスポートします。

5. 「取消し」をクリックしてレポートを閉じます。